

二〇二五年度

沖縄大学 一般選抜（前期）

「国語」

国語

※答はすべて解答用紙に書きなさい。

【問題】 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは個人で情報の①真偽を容易に識別できるものだろうか。まして「正しさとは何か」という哲学的な問いに即答できる人は少ない。それでも、メディア史を専門とする歴史家の目からすれば、情報の真偽は時間の経過によって自ずから明らかになる場合が②アットウ的に多い。あいまい情報に耐える力を私が強調するのは、多くの問題が時間によって解決されているからである。

多くの場合、(1)メディアリテラシーは「メディアを批判的に読み解く力」と理解されており、そのためには批判的思考(クリティカルシンキング)が必要だと考えられてきた。しかし、この批判的思考はしばしばマスコミ批判と単純化されたようである。実際、今日インターネット上に氾濫する「マスゴミ」批判もメディアリテラシー教育の意図せざる結果と言えなくもない。だからこそ、坂本旬・山脇岳志編著『メディアリテラシー——③吟味思考(クリティカルシンキング)を育む』の第九章「批判的思考とメディアリテラシー」において教育心理学者・楠見孝は「批判は非難ではない」とわざわざ次のような前置きをしている。

批判的思考(クリティカルシンキング)は、「批判」という言葉から「相手を批判する思考」と誤解されて、攻撃的なイメージが持たれている。しかし、批判的思考において大切なことは、第一に、相手の発言に耳を傾け、証拠や論理、感情を的確に解釈すること、第二に、自分の考えに誤りや④偏りがないかを振り返ることである。従って、相手の発言に耳を傾けずに攻撃することは批判的思考とは正反対の事柄である。

それゆえ、同書の副題にもあるように、クリティカルシンキングに「吟味思考」という新しい訳語をつけることが⑤ティショウされている。「吟味」は念入りに調べて選ぶことであり、「批判」よりも十分な時間の必要を示すため、この点では高く評価できる訳語といえる。

しかしながら、「吟味思考」を学校におけるメディアリテラシー教育の成果としてどの程度まで期待できるだろうか。【A】、「吟味思考」する市民の比率をどのくらいまで高めることができるかと想定するべきだろうか。フェイクニュースが大統領選にまで⑥エイキョウを及ぼす分断社会のアメリカを見る限り、そうした教育実践の効果について、私は楽観的になれない。

【B】サイバーシティズン(電脳市民)がどれほどクリティカルシンキング(吟味思考)をマスターしたところで、情報の真偽がそう簡単に見分けられると考えるべきではない。私たちが何かの専門家になるということは、別の何かの専門家ではないということを意味する。あらゆる領域で情報の真偽を見分ける能力など、たとえ情報分析のプロフェッショナルであっても個人的には持ち合わせていない。

だとすれば、フェイクニュースなどへの対応策として一般の人びとに求めるべきは積極的（ポジティブ）なメディアリテラシーだけでよいだろうか。むしろ、情報源を検討する判断基準として「ソ・ウ・カ・ナ」即断しない・鵜呑みにしない・偏らない・中だけ見ない」や「だ・い・じ・か・な」誰・いつ・事実・関係・なぜ」を生徒に教えることは必要だ。しかし、それでも見分けがつかない「あいまい情報」に直面した際に、どう対応すべきか、それこそが問われるべきではないだろうか。

そのとき多くの教師は（２）「より広くより深いクリティカルシンキング」を生徒に求めるのかもしれない。しかし、それは誰にでも、できることではない。情報量が爆発的に増大した今日、ますます不可能な要求である。そのために受け入れる情報を減量する「デジタル・ダイエツト」がティショウされるわけだが、食事制限の継続が誰にもできないからこそ、ダイエツト産業は⑦フメツなのではないか。

さらに言えば、私たちが情報に接するのはテストを受ける教室ではなく、⑧カイテキに過ごす日常空間であることがアットウ的に多いはずだ。そうした空間で私たちが求めるのは、認知的な不協和を生まない心地よい情報である。その状況で私たちは「ソ・ウ・カ・ナ」「だ・い・じ・か・な」とファクトチェックをするだろうか。少なくとも私にはできそうもない。

こうした現状を考えた上で、私は前著『流言のメディア史』を次の言葉で結んでいる。

マスメディアの責任をただ追及していればよかった安楽な「読み」の時代はすでに終わり、一人ひとりが情報発信の責任を引き受ける「読み書き」の時代となっている。こうした現代のメディア・リテラシーの本質とは、あいまい情報に耐える力である。この情報は間違っているかもしれないというあいまいな状況で思考を停止せず、それに耐えて⑨サイゼンを尽くすことは人間にしかできないことだからである。

この「耐える力」への期待は、情報の真偽を見分けることが容易ではない、いや、ほとんど不可能なあいまい情報への向き合い方から生まれた。【 C 】、私たちに必要なのはAIが不得意とするあいまい情報に対するリテラシーである。その場合、むしろ消極的（ネガティブ）な視点でメディアリテラシーを考えるべきではないのか。それは情報をやり過ぎ、不用意に発信しない力である。

このネガティブ・リテラシー（消極的な読み書き能力）と同様な発想法は、精神医学者・はつきぎ帯木蓬生の『ネガティブ・ケイパビリティ——答えのない事態に耐える力』（朝日新聞出版・二〇一七年）でも確認できる。帯木はネガティブ・ケイパビリティを「性急に証明や理由を求めず、不確実さや不思議さ、⑩懷疑の中にいることができる能力」と定義している。

この言葉は一九世紀英国の詩人ジョン・キーツがシェークスピアの天才的創作の秘訣にふれて最初に使用したものである。長らく忘れられていたこの概念は、二つの世界大戦に従軍した英国の精神分析学者ウィルフレッド・R・ビオンによって再発見された。

私たちはあいまい情報に直面した場合、このネガティブ・ケイパビリティを意識しない限り、早く「分かれよう」「理解しよう」とするのが普通である。ケイパビリティ（能力）とはポジティブ

(積極的)であるのが普通である。帚木はその理由を「分かりたがる脳」に求める。その正常な脳をカイテキ状態に保つために、専門家は何ごとであれ標準化・体系化された手引書を用意する。医療現場ではまずマニュアルが参照される。【 D 】、私が患者だとしても、病院では⑪速やかに病名を指摘され、はつきり説明されることを望むはずだ。マニュアルを使わず「よくわかりませぬ。経過をみましょう」と言われて、安心できる患者は少ないだろう。

同じようにメディアリテラシーのマニュアルとして、前述した情報チェックリスト「ソ・ウ・カ・ナ」や「だ・い・じ・か・な」も使用されていないだろうか。ニュースのあいまいさに耐えることより、まず真偽をわかりやすく識別して安心することを私たちの脳は求めているからである。時間的にも精神的にも⑫ヨユウのある人でなければ、より広くより深く思考するために判断を引き延ばすことはむずかしい。

【 E 】、精神医療の現場では、病因を不明のままにしておく方が患者にとって望ましい場合も少なくないようだ。何もしなくても時間経過で自然に⑬治癒する場合もあり、主治医は不安な患者を「しかと見ている」ことが大切だと帚木は言う。こうしたネガティブ・ケイパビリティの⑭臨床例からメディアリテラシー教育が学ぶことは少なくないはずだ。専門家を育てる大学人として帚木の次の言葉は心にしみる。

問題解決が余りに強調されると、まず問題設定のときに、問題そのものを平易化してしまう傾向が生まれます。単純な問題なら解決も早いからです。

そうであれば、メディアリテラシー教育でも問題解決を強調すべきではない。イエス／ノーの世論調査、すなわちON／OFF、白／黒のデジタル思考への抵抗力を高めること、あいまい情報の中で事態に耐える人間力こそが、AI時代に求められるリテラシーだからである。

あいまい情報をやり過ぎし、不用意に発信しない思考がクリティカルシンキングであるのならば、それは(3)「耐性思考」とでも呼ぶべきなのではあるまいか。

(佐藤卓己『あいまいさに耐える——ネガティブ・リテラシーのすすめ』2024年 岩波書店 所収。ただし、作問にあたり一部改変した。)

問一 傍線部①から⑭の漢字にはひらがなで読みをつけ、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 【 A 】から【 E 】にあてはまるものを次のなかから選んで入れなさい。

【 】 そもそも なるほど つまり そして だが 【 】

問三 (1) 「メディアアリテラシーは『メディアを批判的に読み解く力』と理解されており、そのためには批判的思考(クリティカルシンキング)が必要だと考えられてきた。」とあるが、そのことと関連して筆者が指摘していることとして、次の(a)～(e)において、適切なものには「○」、適切でないものには「×」をつけなさい。

- (a) 批判的思考はしばしばマスコミ批判と単純化されたようである。
- (b) クリティカルシンキングに「吟味思考」という新しい訳語をつけることには肯定的である。
- (c) クリティカルシンキングをマスターすれば、容易に情報の真偽は見分けられる。
- (d) 積極的なメディアアリテラシーとして、情報源を判断する基準(「ソ・ウ・カ・ナ」「だ・い・じ・か・な」)を生徒に教えることは必要ではない。
- (e) あいまい情報に対しては、その情報をやり過ごし、不用意に発信しないという消極的な視点でメディアアリテラシーを考えるべきである。

問四 (2) 『より広くより深いクリティカルシンキング』を生徒に求める」とあるが、そのことの困難な理由について、文章中の言葉を用いて一〇〇字程度で説明しなさい。

- 4 -

問五 クリティカルシンキングのことを(3)『耐性思考』とでも呼ぶべきなのではあるまいか。」とあるが、そのことについて、文章中の言葉を用いて一〇〇字程度で説明しなさい。

問六 この文章についてのあなたの意見や感想を二〇〇字程度で書きなさい。そのさい、「メディアアリテラシー」、「あいまい情報」の二つの語句を用いること。